

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月31日

上場取引所 大

上場会社名 ジーエフシー株式会社

コード番号 7559 URL <http://www.gfc-c.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西村公一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 飯尾照男

四半期報告書提出予定日 平成23年2月9日

TEL 058-387-8181

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	18,952	△0.2	543	△9.2	590	△8.7	294	45.7
22年3月期第3四半期	18,997	△4.4	598	△7.4	647	△5.4	201	△48.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	50.98	—
22年3月期第3四半期	34.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
23年3月期第3四半期	20,284		14,092	69.4		2,442.73
22年3月期	16,768		13,921	83.0		2,413.21

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 14,092百万円 22年3月期 13,921百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期(予想)				25.00	25.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,719	1.7	567	△3.4	615	△5.2	334	67.0	58.03

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）、  
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)  
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 5,769,040株 22年3月期 5,769,040株  
② 期末自己株式数 23年3月期3Q 86株 22年3月期 86株  
③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 5,768,954株 22年3月期3Q 5,768,954株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第3四半期連結累計期間) .....	6
(第3四半期連結会計期間) .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
4. 補足情報 .....	11
生産、受注及び販売の状況 .....	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国を中心とした海外の景気回復に伴う輸出拡大や政府の国内景気対策によって、一時的に景気回復の兆しが見られました。しかしながら、急激な円高の進行や雇用環境・個人消費の停滞、国内市場のデフレ傾向などの経済環境の長引く低迷と国内景気対策の終了や縮小に伴う消費の反動減など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

外食産業におきましても、一部の外食業態に業績の回復は見られるものの、先行き不透明感から消費者の節約志向、中食・内食志向、低価格志向に大きな変化は見られず、引き続き厳しい環境の中で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）では、中期計画の骨子でもあります収益構造の改革と、新事業分野の開拓に全社を挙げて継続的に取り組むと同時に、市場競争力の高い商品の企画開発力の強化に注力いたしました。また、より一層きめの細かい営業活動を実施することによって、市場でのシェアアップに全力を傾けるとともに、国内外の新規販路開拓にも取り組んでまいりました。特に、当第3四半期連結会計期間においては秋の行楽需要への対応をはじめ、年末年始需要の忘・新年会、おせち商材の販売に全力を傾け、前年同四半期を上回る販売実績を上げることが出来ました。しかしながら、前第3四半期連結累計期間との比較においては、国内外の市場や景気の長引く停滞による第2四半期連結累計期間までの売上減少分を補うまでに留まっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、189億52百万円（前年同四半期比0.2%減）、営業利益5億43百万円（前年同四半期比9.2%減）、経常利益5億90百万円（前年同四半期比8.7%減）、四半期純利益2億94百万円（前年同四半期比45.7%増）となりました。

セグメント別の売上状況は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 セグメント別売上高	前年同四半期比（%）
業務用加工食材	18,920	—
その他	32	—
計	18,952	—

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

##### （資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、202億84百万円（前連結会計年度末は167億68百万円）となり、35億15百万円増加いたしました。現金及び預金の減少（51億55百万円から41億12百万円、10億43百万円減）並びに有価証券の減少（9億99百万円から4億49百万円、5億49百万円減）があったものの、受取手形及び売掛金の増加（28億55百万円から72億76百万円、44億20百万円増）並びに投資有価証券の増加（9億45百万円から15億99百万円、6億53百万円増）が主な要因であります。

##### （負債の状況）

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、61億92百万円（前連結会計年度末は28億46百万円）となり、33億45百万円増加いたしました。支払手形及び買掛金の増加（17億29百万円から45億8百万円、27億78百万円増）並びに短期借入金5億円の発生が主な要因であります。

##### （純資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、140億92百万円（前連結会計年度末は139億21百万円）となり、1億70百万円増加いたしました。利益剰余金の増加（93億25百万円から94億75百万円、1億49百万円増）並びにその他有価証券評価差額金の増加（△42百万円から△22百万円、20百万円増）が要因であります。

#### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ8億43百万円減少し41億12百万円となりました。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果使用した資金は、12億20百万円（前第3四半期連結累計期間は9億55百万円支出）となりました。これは主に仕入債務の増加27億73百万円及び税金等調整前四半期純利益5億30百万円があったものの、売上債権の増加44億20百万円により、資金が減少したことによるものであ

ります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果得られた資金は、22百万円（前第3四半期連結累計期間は2億21百万円支出）となりました。これは主に有価証券の取得による支出21億49百万円及び投資有価証券の取得による支出7億円があったものの、有価証券の償還による収入27億円及び定期預金の払戻による収入2億円により、資金が増加したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果得られた資金は、3億55百万円（前第3四半期連結累計期間は3億55百万円収入）となりました。これは短期借入金の返済による支出10億円及び配当金の支払額1億44百万円があったものの、短期借入れによる収入15億円があったことによるものであります。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の通期の連結業績予想につきましては、平成22年5月13日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ① 簡便な会計処理

##### (A) たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

##### (B) 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ① 会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ702千円減少し、税金等調整前四半期純利益は、14,908千円減少しております。

#### ② 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,112,437	5,155,922
受取手形及び売掛金	7,276,039	2,855,084
有価証券	449,907	999,835
商品及び製品	1,106,805	855,230
原材料及び貯蔵品	58,974	52,078
繰延税金資産	52,500	87,994
その他	28,677	92,027
貸倒引当金	△7,970	△8,030
流動資産合計	13,077,372	10,090,142
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,100,031	1,178,804
機械装置及び運搬具（純額）	207,830	243,034
土地	3,847,031	3,847,031
建設仮勘定	3,150	3,150
その他（純額）	40,908	57,873
有形固定資産合計	5,198,952	5,329,894
無形固定資産	56,512	66,917
投資その他の資産		
投資有価証券	1,599,054	945,586
繰延税金資産	70,506	48,729
その他	291,071	295,301
貸倒引当金	△8,923	△8,008
投資その他の資産合計	1,951,709	1,281,608
固定資産合計	7,207,173	6,678,420
資産合計	20,284,546	16,768,563

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,508,238	1,729,247
短期借入金	500,000	—
未払法人税等	202,554	260,417
賞与引当金	67,290	134,691
役員賞与引当金	4,550	6,435
その他	419,934	249,177
流動負債合計	5,702,567	2,379,968
固定負債		
退職給付引当金	184,409	175,163
役員退職慰労引当金	261,913	247,584
その他	43,606	44,132
固定負債合計	489,928	466,879
負債合計	6,192,495	2,846,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,344,021	2,344,021
資本剰余金	2,295,156	2,295,156
利益剰余金	9,475,490	9,325,606
自己株式	△105	△105
株主資本合計	14,114,563	13,964,679
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△22,512	△42,963
評価・換算差額等合計	△22,512	△42,963
純資産合計	14,092,050	13,921,715
負債純資産合計	20,284,546	16,768,563

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	18,997,192	18,952,630
売上原価	15,646,296	15,614,992
売上総利益	3,350,895	3,337,637
販売費及び一般管理費	2,752,137	2,793,994
営業利益	598,758	543,643
営業外収益		
受取利息	23,851	20,669
受取配当金	3,363	3,532
有価証券売却益	—	459
受取賃貸料	11,323	11,223
その他	14,207	13,954
営業外収益合計	52,745	49,838
営業外費用		
支払利息	50	365
有価証券売却損	1,460	—
賃貸収入原価	2,526	2,458
営業外費用合計	4,037	2,823
経常利益	647,466	590,658
特別利益		
固定資産売却益	23	22
特別利益合計	23	22
特別損失		
固定資産売却損	132	42
固定資産除却損	1,150	309
投資有価証券評価損	—	45,515
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	14,205
特別損失合計	1,282	60,072
税金等調整前四半期純利益	646,207	530,608
法人税、住民税及び事業税	214,721	201,961
法人税等調整額	229,663	34,539
法人税等合計	444,385	236,500
少数株主損益調整前四半期純利益	—	294,107
四半期純利益	201,822	294,107



(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	8,959,617	9,212,550
売上原価	7,342,123	7,589,467
売上総利益	1,617,493	1,623,082
販売費及び一般管理費	961,890	1,012,001
営業利益	655,603	611,080
営業外収益		
受取利息	8,103	6,298
受取配当金	1,573	1,573
受取賃貸料	3,741	3,741
その他	3,014	4,841
営業外収益合計	16,432	16,454
営業外費用		
支払利息	50	40
賃貸収入原価	795	805
営業外費用合計	845	846
経常利益	671,189	626,688
特別利益		
固定資産売却益	23	—
投資有価証券評価損戻入益	—	5,017
特別利益合計	23	5,017
特別損失		
固定資産除却損	486	228
特別損失合計	486	228
税金等調整前四半期純利益	670,727	631,477
法人税、住民税及び事業税	208,602	197,820
法人税等調整額	65,185	63,982
法人税等合計	273,787	261,803
少数株主損益調整前四半期純利益	—	369,673
四半期純利益	396,939	369,673

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	646,207	530,608
減価償却費	184,869	159,805
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△71,250	△67,401
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,745	△1,885
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	6,180	9,246
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	9,912	14,329
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	9,369	855
受取利息及び受取配当金	△27,214	△24,201
支払利息	50	365
有価証券売却損益 (△は益)	1,460	△459
固定資産売却損益 (△は益)	108	19
固定資産除却損	1,150	309
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	45,515
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	14,205
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,317,012	△4,420,955
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△47,153	△258,471
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,756,131	2,773,110
その他の資産の増減額 (△は増加)	41,257	44,272
その他の負債の増減額 (△は減少)	112,481	186,986
小計	△696,196	△993,743
利息及び配当金の受取額	33,799	29,309
利息の支払額	△1,089	△396
法人税等の支払額	△292,286	△255,824
営業活動によるキャッシュ・フロー	△955,773	△1,220,655
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△700,000	—
定期預金の払戻による収入	900,000	200,000
有価証券の取得による支出	△1,499,824	△2,149,824
有価証券の償還による収入	1,500,000	2,700,022
有形固定資産の取得による支出	△90,064	△29,346
有形固定資産の売却による収入	171	170
無形固定資産の取得による支出	△22,176	△1,668
投資有価証券の取得による支出	△309,553	△700,000
投資有価証券の売却による収入	—	2,000
長期貸付金の回収による収入	315	771
投資活動によるキャッシュ・フロー	△221,132	22,124
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	500,000	1,500,000
短期借入金の返済による支出	—	△1,000,000
配当金の支払額	△144,691	△144,954
財務活動によるキャッシュ・フロー	355,308	355,045
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△821,596	△843,484
現金及び現金同等物の期首残高	4,859,677	4,955,922
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,038,080	4,112,437

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

業務用加工食材の製造及び販売という単一事業であるため、記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の100分の10未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

① 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、業務別に本部を置き、各本部が連携をして包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社は、業務別の本部を基礎とした製品・商品・サービス別のセグメントから構成されており、「業務用加工食材」を報告セグメントとしております。

「業務用加工食材」は水産加工品、農産加工品及び畜肉加工品の製造及び販売を行っております。

② 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計 (注) 2
	業務用加工食材		
売上高			
(1) 外部顧客への売上高	18,920,323	32,307	18,952,630
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	18,920,323	32,307	18,952,630
セグメント利益又はセグメント損失(△)	563,467	△19,823	543,643

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計 (注) 2
	業務用加工食材		
売上高			
(1) 外部顧客への売上高	9,201,274	11,275	9,212,550
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	9,201,274	11,275	9,212,550
セグメント利益又はセグメント損失（△）	618,392	△7,311	611,080

（注） 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、宅配事業であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

- （6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

##### 【生産、受注及び販売の状況】

###### (1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)
業務用加工食材 (千円)	404,528	—
その他 (千円)	—	—
合計 (千円)	404,528	—

(注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### (2) 仕入実績

当第3四半期連結累計期間の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)
業務用加工食材 (千円)	15,691,417	—
その他 (千円)	10,882	—
合計 (千円)	15,702,299	—

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### (3) 受注状況

当社グループは見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

###### (4) 販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)
業務用加工食材 (千円)	18,920,323	—
その他 (千円)	32,307	—
合計 (千円)	18,952,630	—

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### (5) 季節的変動

当社グループの業務用加工食材事業では、主として第3四半期連結会計期間に宴会需要やおせち商材の販売が集中して発生するため、通常、第3四半期連結会計期間の生産実績、仕入実績及び販売実績は他の四半期連結会計期間と比べて高くなっております。